

中国四国地域国内肥料資源利用拡大ネットワーク 第1回勉強会（概要）

- 中国四国農政局では、国内肥料資源の利用について関心を高め、取組を拡大するため、令和5年10月31日に、中国四国地域国内肥料資源利用拡大ネットワークを設立しました。
- 設立に合わせて参加募集を行った第1回勉強会では、農林水産省の国内肥料資源利用拡大に向けた対策をはじめ、新しい公定規格「菌体りん酸肥料」の概要を説明するとともに、「菌体りん酸肥料」の製造に新たに取り組みようとする肥料製造事業者から今後の事業展開等について説明がありました。

勉強会の概要

- 開催日：令和5年11月15日(水)
14:00～15:15
- 方法：オンライン
- 参加者：会員68名



○プログラム

国内肥料資源利用拡大対策の推進：農林水産省農産局技術普及課

国内肥料資源の利用拡大に向けた取組について、全国推進協議会の取組を中心に説明。

菌体りん酸肥料について：中国四国農政局消費・安全部農産安全管理課

令和5年10月に新たに公定規格が設定された「菌体りん酸肥料」について、現行の污泥肥料との違い（污泥資源を使用した肥料のうち、品質管理計画に基づいて生産された肥料であること等）、肥料登録までの流れ等を説明。

管内の先行事例：(株)日本有機四国（愛媛県西条市）

日本有機四国は、食品残さや食品工業污泥を肥料化してきた。令和3年から、廃棄物処理から持続可能な循環型社会を目指す企業として、既存の污泥肥料をペレット化し、小袋化した新商品「コエル」を発売し、新たな価値を生み出す取組をはじめた。「コエル」は、生産者のみならず、家庭菜園でも広く利用されている。

今後は、愛媛県東予地方の下水污泥等の再利用に向け、菌体りん酸肥料の製造を新たに取り組み、自治体内循環を実現したいと意欲のある説明があった。

